

一九五七年七月二十五日
発行刷



第40卷 第4号

史学・地理学・考古学

初期大和政権の勢力圏 ……………小林 行 雄（1）

Vormärz における社会主義 ……………広 実 源 太 郎（26）
——W. Weitling の思想と位置を中心にして——

「麓」集落に関する二・三の検討 ……………押 野 昭 生（52）

書評と紹介

小葉田淳：岡本村史……………黒 田 俊 雄（82）

池田源太：歴史の始源と口誦伝承……………上 田 正 昭（84）

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究
〒606-0801 京都府京都市下京区三本木

を単なる自宅職人に転落させ、「一八四八年の歴史は親方がなお依然として古い秩序の方を向いていたのをしめしている」^⑤。共産主義者の内容も、ブルシェンシャフト左派の伝統を受継いだ「白き手」のものと、「油の手」のものとの間には冷い闘争が存在する。また更に、革命勢力と農民との関係も極めて不十分である。このようにみてくる時、三月革命は革命と反革命の対立以前に、ドイツ社会の現実を反映して、革命勢力の中に対立を含み、自解していく面が多かつたのではあるまいか。

註

- ① W. Mommsen: Grösse und Versagen des deutschen Bürgertums, Stuttgart, 1949, S. 156.
- ② ibid. S. 157.
- ③ Stadelmann: Soziale u. politische Geschichte der Revolution von 1848, S. 155fs.
- ④ Obermann: Die Deutschen Arbeiter in der Revolution von 1848, S. 35fs.
- ⑤ ibid. S. 38. その多くはヴァイトリント同様、仕立職人である。
- ⑥ K. Obermann: Einheit und Freiheit, Berlin, 1950, S. 30 fs. A. Meusel: Die deutsche Revolution von 1848, Berlin 1948. その他を参照。なお松田智雄「近代の史的構造論」九八

頁以下をみよ。

⑦ J. H. Clapham: Economic Development of France and Germany 1815-1914, Cambridge 1951, P. 323.

(本稿は昭和三十一年度、科学研究助成金による研究の一部である。)

執筆 者 紹 介

小林 行雄	京都大学講師
広実源太郎	和歌山大学助教授
押野 昭・生	京都大学大学院学生
黒田 俊雄	神戸大学講師
上田 正昭	立命館大学講師

についてきわめて否定的であるが、「伝承はどれだけ変化せぬ儘、旧態を保持すること出来るか」(一四九頁—一五〇頁)という

問題は、本書の論述によつて果して完全に論じ尽されたであろうか。筆者もまた伝承体と伝承荷担者の性質よりいつて、口誦伝承の不易的要素を認める者の一人であるが、口誦伝承の内部にも発展があり(進化論的意味ではない)、特に文字化した場合などには、その

社会的歴史的條件によつて変容の作用がはたらく場合の多い点も十分に考慮されねばならぬと思われる。そして一度記録化した伝承—文献伝承は、口誦伝承とは異質の要素を有することも注意する必要がある。モティーフの類似や形態の異同の分析は、非常に重要だが、文献伝承と口誦伝承の区別をしておくことは、常に肝要だと考へる。無論著者の論述はきわめて慎重である。わが国の古伝について、

「若干の部分は伝承体として存在していても、それなら他の大部分はいつたいどうであるのか。口誦伝承がいかにして記紀に定着していつたか。著者が津田史学とは反対の立場をと

つておられるだけに、今少しそのことを追究していただきたいかと思つたのである。

この点は次の疑問に連つてゐる。著者は神名列挙の部分について、図表的系譜のもつ意義に触れ、大國主神の挿話をはさんだ「右件自_二八嶋土奴美神_一以下、遠津山岬帶神以前、称_二十七世神_一」のくだりを通じて、帝紀に先行する伝承体に言及されているが(二四八頁)、著者のいわれるこの「十七世神」が直系神を意味するに拘らず、記録上の実数は実

は「十五世神」であることなども、伝承体と記録化の間に介在する複雑な問題を物語つてゐる。口誦伝承と文献伝承の矛盾か、伝本上の誤写又は誤脱か、名の意義が重大であればあるだけ、口誦伝承と文献伝承の一応の配慮がなされねばならぬという所以である。更に「命」という一定の敬称を有する中臣氏の遠祖「天兒屋命」についての論証は、前述した

ように興味ある研究であるが、忌部氏と共に、どうして「天皇家の私的な伝承も次第に中臣・齊部二氏に移更して行く傾向が生じ」(一二四頁)るのか。著者が歴史学の出身であるだけに

もつと掘り下げて欲しかったと思つたか。著者が津田史学とは反対の立場をと

かにすることが、他氏の伝承、諸國語部との差異を明確にし、「命」(みこともち)の本質を究めることになると思へるからである。著者は「文献学から離れた立場」より出発したと最後の章に述べられているが、今後これらの問題に研究の歩を進めていただくことを願わずにはおられない。尚民俗学的なものにアクセントをおいた著者が、我が国の民俗に言及された場合、例が主として奈良県に限られたのは残念であつた。

以上日本古代史を専攻する者の立場より望蜀の言を提したが、それは決して本書の価値を損うものではない。本書によつて口誦伝承研究の道が容易となり、確固たる前提の築かれたことを心より喜びたい。(緑芸舎刊八〇〇円)

訂正 四〇巻三号に次の誤りがありましたので訂正いたします。

表紙目次 (誤) 江戸時代初期に於ける教訓仮名抄について → (正) 江戸時代初期に於ける教訓仮名抄について

五五頁 史学研究会七月例会予告 (誤) 水野清一 → (正) 水野清一

上田正昭

季刊 西洋史学

第XXXIII輯

弁論術の起源とエムベドクレス……………	永井康	視
ツキュディデスの思想の変遷について……………	藤縄謙	三
キブリアススにおける司教制度……………	佐藤吉	昭
ルネッサンス研究の道標……………	永井三	明
○ 書評・紹介・国内学界動向		

第XXXIV輯

ヘルマン・ミュラー大連合内閣の崩壊について……………	中村幹	雄
モンテスキューの政治思想……………	三宅正	樹
司法権優越性と1787年の憲法会議……………	禿氏好	文
南北戦争に関する諸解釈の史的考察……………	木村喜久	弘
○ 書評・紹介・国内学界動向		

各輯 　　¥ 140.

バック・ナンバー在庫分は取扱います

京都大学文学部
西洋史研究室内

日本西洋史学会

振替は 西洋史研究室宛
京都 10369へ

編集後記

本号は、国史・東洋史・西洋史・地理・考古学ともいづれ劣らぬ力作が寄せられ、限られた頁数の中にどれを入れるかで編集委員会は大いに難航しましたが、結局本年度に入つてからの掲載数を検討して、国史と東洋史は残念ながら次号へ廻すことになりました。一種の常識的解決で、紙数の不足という事態の根本的な解決には少しもならないわけですが、委員会のかかる統計機械化は、ここしばらく避けることができなようです。

しかし、これを踏切るためにも、ますます史林の内容を充実しなければなりません。皆様の御投稿をおまちする所以です。

学会消息も、

そういうわけ

で次号に一括

しますから御

諒承願います。

(朝尾直弘)

一九五七年六月二五日印刷
一九五七年七月一日発行

定価 百円

史林 (第四〇巻 第四号)

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内
振替 京都五一五五番
理事 長 宮崎市定
編輯主任 赤松俊秀

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内 東町三九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XL NO. 4

Jul. 1957

CONTENTS

Articles

- Sphere of the Early *Yamato* (大和)
DynastyY. Kobayashi (1)
- Der Sozialismus im Vormärz—Die werke und der
Gedanke des W. Weitlings—G. Hirozane (26)
- Some Suggestions on the "*Humoto*" (麓)
SettlementsA. Osino (52)

Book Reviews

Published
by
THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)
Kyoto University, Kyoto, Japan